

ANNUAL REPORT 2026

業務のご案内

このまちが、
すべて。
このまちに、
すべて。



令和8年3月9日「浅生支店」新装オープン



HANGYODON

© 2026 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L664288



あなたと共に、ハーモニー・バンク
福岡ひびき信用金庫

当金庫の概要

(令和8年3月31日現在)

設 立 大正13年1月
本店所在地 北九州市八幡東区尾倉2-8-1
出 資 金 33億53百万円
会 員 数 70,405人
役 職 員 数 518人
店 舗 数 42店舗（代理店1店舗を含む）
営 業 区 域 福岡県一円 山口県下関市 大分県中津市



企業理念

1. 中小企業の健全な発展
2. 豊かな国民生活の実現
3. 地域社会繁栄への奉仕

経営理念

1. お客様と真摯に向き合い、期待を超える。
2. まちの元気をつくり、未来を照らす。
3. 金庫の発展と、職員一人ひとりの幸せを実現する。



CONTENTS

ごあいさつ	1
業績トピックス	2
地域社会とひびしん	4
沿革	5
役員・組織図	6
ひびしんインフォメーション	7
持続可能な地域社会に向けたひびしんの取組み	8
中小企業の経営支援に関する取組み	9
地域活性化に対する取組み	13
総代会等に関する事項	16

商品等のご案内・手数料一覧	18
店舗のご案内	23
マネー・ローンダリング・テロ資金供与・拡散金融対策ポリシーについて	25
サイバーセキュリティの管理態勢	26
リスク管理の体制	27
法令遵守（コンプライアンス）の体制	29
金融ADR制度への対応・主要な事業の種類	30
信金中央金庫のご紹介	31
開示項目一覧・当金庫のディスクロージャー誌 （資料編）の閲覧に係るご案内	33

ごあいさつ



会長
井倉 眞



理事長
一江 哲哉

皆さまには、平素より福岡ひびき信用金庫に格別のご支援とご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

本年も、ディスクロージャー誌「ANNUAL REPORT 2026 業務のご案内」を作成いたしました。本誌では、当金庫の経営方針、業務の内容、業績等についてご報告しております。ぜひご高覧賜り、当金庫へのご理解を一層深めていただければ幸甚に存じます。

令和7年度の経済環境を顧みますと、国際情勢の不確実性を背景に、世界経済は大きく変化いたしました。地政学的リスクの高まりに加え、資源・エネルギー価格の変動、物価上昇、各国における金融政策の転換等により、先行き不透明な状況が続いております。

国内におきましては、賃上げの動きや設備投資の回復など、景気の持ち直しに向けた兆しが見られる一方で、中小企業においては、原材料価格の高騰や人手不足の深刻化など、依然として厳しい経営環境が続いております。地域金融機関には、こうした環境変化を的確に捉え、地域企業に寄り添った伴走型支援を一層強化していくことが求められております。

また、長らく続いた低金利環境から転換し、いわゆる「金利のある世界」への移行が進みつつあります。資金調達コストの上昇や金利動向の変化は、企業経営や投資判断に影響を及ぼす一方で、金融機関における収益構造やリスク管理のあり方にも変化をもたらしております。当金庫といたしましては、こうした変化を的確に捉え、お客さまの資金需要や経営課題に応じた適切な金融サービスの提供に努めてまいります。

当金庫の営業基盤である北部九州地域におきましても、人口減少・高齢化の進展に加え、産業構造の転換、脱炭素化への対応、人材確保など、さまざまな課題が顕在化しております。一方で、半導体関連投資の進展やサプライチェーンの再編など、地域経済に新たな成長機会も生まれつつあります。

このような環境のもと、当金庫では、経営改善支援・資金繰り支援などの金融機能の提供に加え、対話を通じてお客さまの本質的な課題を的確に把握する等、金融・非金融の両面から伴走支援の深化に取り組んでまいりました。

その結果、令和7年度の当金庫の業績は、経常収益18,599百万円（対前期比26.7%減）、経常費用16,785百万円（対前期比29.7%減）、経常利益1,814百万円（対前期比20.9%増）、当期純利益1,342百万円（対前期比46.8%増）となりました。

また、期末の自己資本比率は、国内基準である4%を大きく上回る11.76%となり、不良債権比率は2.72%となりました。引き続き、健全性の維持と収益力の向上に努めてまいります。

先行きが不透明な時代において持続的な成長を実現していくためには、役職員一人ひとりが自己研鑽により個の能力を磨き、取引先・地域の皆さまから信頼される存在であり続けることが不可欠であります。当金庫は、これからも地域の皆さまに必要とされる信用金庫として、日々のお客さまの課題に真摯に向き合い、地域の課題解決に誠実に取り組んでまいります。今後とも、なお一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年6月26日

会長 井倉 眞
理事長 一江 哲哉

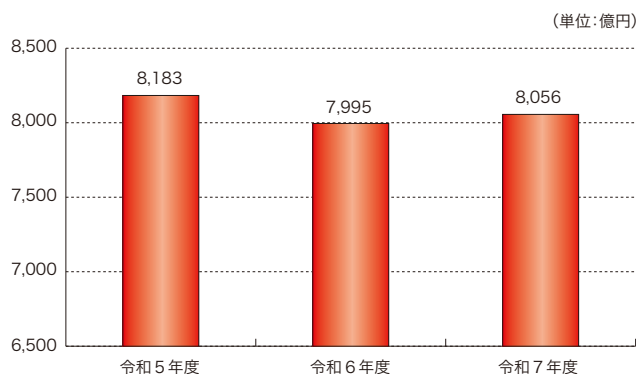
預金積金の推移

令和7年度は、夏季キャンペーンとして金利上乘せ定期預金「ハンギョドン～Summer～定期預金」を、冬季も同じく金利上乘せ定期預金「ハンギョドン～Winter～定期預金」を販売し、夏季は129億円、冬季には224億円を獲得することができました。

また、日銀の政策金利引上げに伴う預金獲得競争に対応するため、7月より商品内容を改定した相続定期預金を販売し27億円を獲得いたしました。この結果、定期預金残高は前期比134億円増加となりました。

最終的に、預金残高は前期比60億90百万円増加し、8,056億円となりました。

預金積金残高 8,056億円

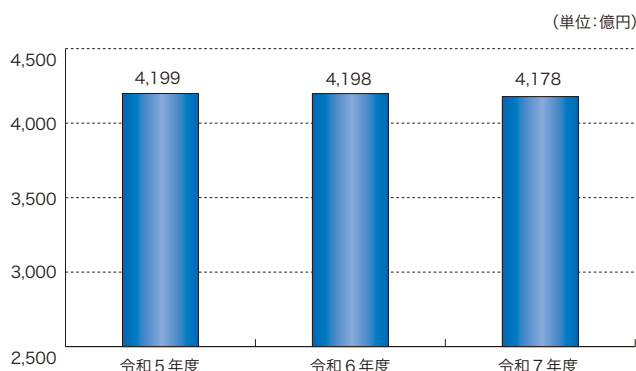


貸出金の推移

令和7年度の事業性融資は、新規取引先の増加により手形貸付は21億12百万円増加しましたが、証書貸付は金融機関同士の競争が激しく15億5百万円減少するなど、前期比1億66百万円の減少となりました。個人向け融資は、消費者ローンが34億96百万円増加したものの、住宅ローンが27億51百万円減少となり、前期比18億62百万円の減少となりました。

この結果、期末の貸出金残高は前期比20億29百万円減少し、4,178億円となりました。

貸出金残高 4,178億円



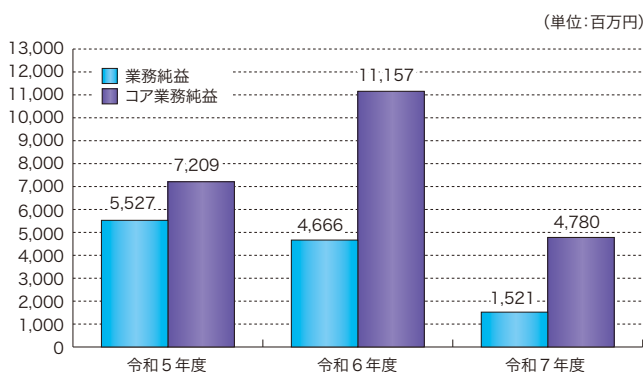
業務純益*1/コア業務純益*2の推移

預金利息の増加や金融派生商品収益の減少により、令和7年度の業務純益は前期比31億45百万円減少の15億21百万円となりました。

また、業務純益から一般貸倒引当金繰入額や国債等債券関係損益を除いたコア業務純益は、前期比63億77百万円減少し47億80百万円となりました。

業務純益 15億21百万円

コア業務純益 47億80百万円



*1 業務純益・・・・・・ 貸出金や有価証券等の受入利息や手数料などの収入から、預金等の支払利息や支払手数料、経費を差し引いたものです。

*2 コア業務純益・・・・ 業務純益から、一般貸倒引当金および国債等債券関係損益を除いたものです。

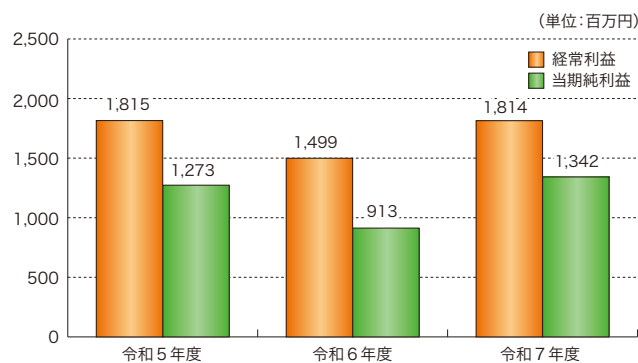
経常利益/当期純利益の推移

経常収益から経常費用を差し引いた、令和7年度の経常利益は前期比3億14百万円増加し、18億14百万円となりました。

最終的に当期純利益は、前期比4億28百万円増加し13億42百万円となりました。

経常利益 18億14百万円

当期純利益 13億42百万円



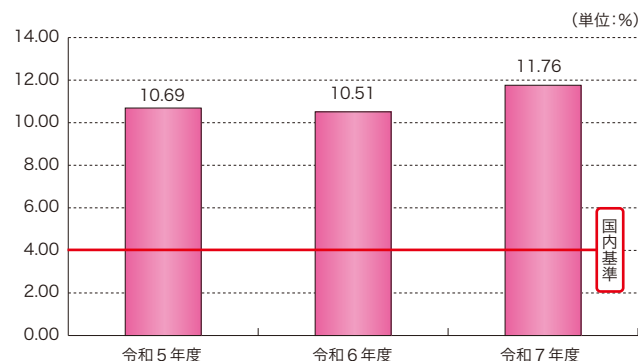
単体自己資本比率

令和7年度の単体自己資本比率は、11.76%となりました。

国内基準（4%）を大幅に上回る高い水準を維持しております。

※平成25年度末より、自己資本比率規制に関する金融庁告示第19号の一部改正に伴い、パーゼルIII基準により自己資本比率を算出しております。

自己資本比率 11.76%



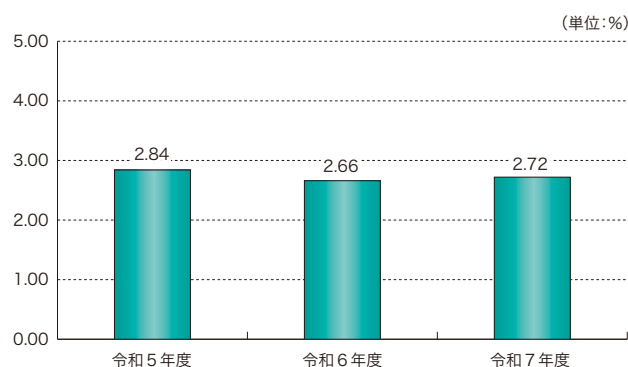
不良債権比率

令和7年度の金融再生法に基づく不良債権額は、113億87百万円となりました。

この結果、不良債権比率は対前期比0.06%上昇し、2.72%となりました。

当金庫は、法令等に基づき厳格な償却・引当を行っております。引き続き、健全な資産の維持に努めてまいります。

不良債権比率 2.72%



当金庫は、福岡県一円と山口県下関市、大分県中津市を事業区域として、地元の中小企業や住民の皆さまが会員となって、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。

地元の皆さまからお預りした大切な資金（預金積金）は、地元で資金を必要とするお客様に融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地元の中小企業や住民の皆さまとの強いネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず、企業としての社会的責任（CSR）を自覚し、文化・環境・教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。



令和8年3月31日現在

大正 13年	1月	有限責任信用組合八幡庶民金庫を設立
昭和 18年	10月	有限責任信用組合八幡庶民金庫と有限責任八幡信用組合が合併し「有限責任八幡庶民信用組合」が誕生
昭和 25年	4月	中小企業等協同組合法の施行に伴い信用協同組合に改組
昭和 26年	10月	信用金庫法制定に伴い改組改称し「八幡市信用金庫」として発足
昭和 38年	6月	北九州市発足により「北九州八幡信用金庫」と改称
昭和 48年	1月	「八信同友会」(現・ひびしん同友会)発足
昭和 60年	10月	「はっしん経営大学」(現・福岡ひびき経営大学)第1期講座開講
平成 2年	4月	「八信ニューリーダー会」(現・ひびしんニューリーダー会)発足
平成 6年	1月	「はっしん経営者賞」(現・福岡ひびき経営者賞)創設
平成 13年	4月	「イングスクラブ」設立
	11月	北九州八幡信用金庫と若松信用金庫が合併し「福岡ひびき信用金庫」が誕生 (理事長 古川育史 就任)
平成 14年	9月	福岡ひびき信用金庫と直方信用金庫との二金庫間で合併基本協定書調印
	11月	福岡ひびき信用金庫・新北九州信用金庫・門司信用金庫・築上信用金庫・直方信用金庫の5金庫間で、合併基本協定書調印
平成 15年	6月	高須支店新装オープン
	10月	福岡ひびき信用金庫・新北九州信用金庫・門司信用金庫・築上信用金庫・直方信用金庫が合併し、新生「福岡ひびき信用金庫」が誕生
平成 16年	11月	荒生田支店新装オープン
平成 17年	1月	小倉支店移転オープン
	2月	室町支店他2店舗を統合
	10月	三六支店他3店舗を統合
平成 18年	1月	浜町支店他2店舗を統合
	4月	大里支店移転オープン
	6月	役員改選により 会長 古川育史 理事長 谷石喜一 就任
	10月	近衛橋支店他5店舗を統合
平成 19年	2月	福岡支店新規開設
	10月	昭和町支店他2店舗を統合
平成 20年	4月	門司港支店新装オープン
	5月	豊前支店新装オープン
	10月	本城東支店他1店舗を統合
平成 21年	2月	「ひびしんビジネスフェア」初開催
	10月	総代改選し150名体制へ(新総代53名誕生)
		ひびしんニューリーダー会発足20周年記念大会開催
		木町支店他2店舗を統合
	12月	行橋支店新装オープン
平成 22年	2月	「ひびしん女性創業塾」初年度開講
平成 23年	2月	曾根支店新装オープン
	12月	預・貸金総和1兆円達成
平成 24年	5月	町上津役支店新装オープン
	6月	理事長 野村廣美 就任
	10月	守恒出張所新規開設
	11月	ひびしん同友会発足40周年記念式典開催
平成 25年	6月	古川育史会長退任
	10月	5金庫合併10周年記念「飛鳥Ⅱクルーズ」実施
		当金庫及び大分みらい信金、西中国信金による「大規模災害発生時の相互支援に関する覚書」を締結
平成 26年	2月	創立90周年・5金庫合併10周年記念式典開催
	4月	葛原湯川支店を統合
	5月	大蔵支店を代理店へ移行
	6月	福岡ひびき経営者賞20周年記念式典開催
	12月	千早支店新規開設
平成 27年	3月	折尾支店新装オープン
	6月	東二島支店新装オープン
	9月	宮丸支店を統合
	9月	宇野支店を統合
平成 28年	9月	ベイサイドプラザ若松閉店
平成 30年	1月	椎田支店・築城支店を統合し、築上町支店新装オープン
	5月	当金庫と磐田信用金庫の二金庫間で業務連携協定を締結
	8月	守恒出張所閉店
平成 31年	4月	九州16金庫「飛鳥Ⅱしんさんリレークルーズ」開催
令和 1年	7月	黒原支店を移転し、城野支店として新装オープン
	9月	前田支店を統合
	10月	中央町支店、小石支店、原町支店をサテライト店舗へ移行
		大蔵代理店、中央町支店、小石支店、天籟寺支店、原町支店の5店舗において「昼休み」時間を導入
令和 2年	6月	役員改選により 会長 野村廣美 理事長 井倉眞 就任
令和 3年	2月	則松支店、中原支店、頓野支店をサテライト店舗へ移行し、「昼休み」時間を導入
	5月	中間支店新装オープン
	6月	若宮支店において、「昼休み」時間を導入
	10月	原町支店を統合
	11月	二島支店新装オープン
令和 4年	3月	北方支店を移転し、守恒支店として新装オープン
	5月	18店舗において、「昼休み」時間を導入
	11月	ひびしん同友会発足50周年記念式典開催
		苅田支店新装オープン
令和 5年	2月	天籟寺支店を統合
	5月	5店舗において、「昼休み」時間を導入
	10月	中央町支店、則松支店を統合
	11月	創立100周年記念式典開催
令和 6年	5月	5店舗において、「昼休み」時間を導入
		博多支店新規開設
	6月	野村廣美会長退任
	11月	4店舗において、「昼休み」時間を導入
令和 7年	7月	当金庫、尼崎信用金庫、浜松いわた信用金庫、川崎信用金庫がE S G金融で広域連携協定を締結
令和 8年	1月	「ビジネスカジュアル」導入
	3月	浅生支店新装オープン
	6月	役員改選により 会長 井倉眞 理事長 一江哲哉 就任

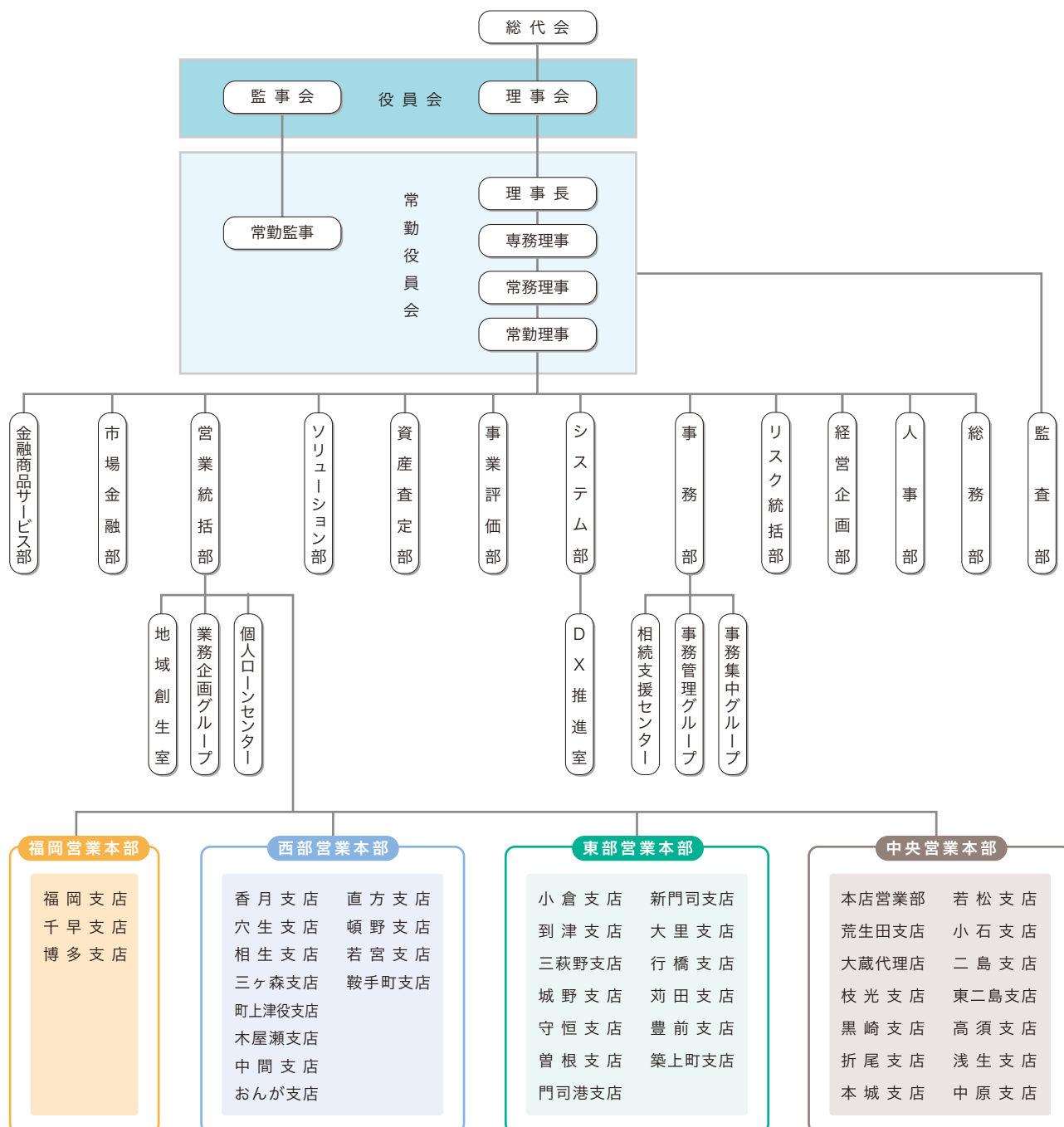
役 員

会 長	井 倉 眞
理 事 長	一 江 哲 哉
専務理事	黒 木 清 輝
専務理事	江 崎 鶴 彦
常務理事	森 重 隆
常務理事	宮 城 和 男
常勤理事	林 間 勝 利
常勤理事	入 江 清 吾
常勤理事	所 禎 浩

非常勤理事	井 上 龍 子 (注1)
非常勤理事	吉 田 茂 人 (注1)
常勤監事	古 川 正 和
非常勤監事	東 能 利 生 (注2)
非常勤監事	原 田 美 紀 (注2)

(注1) 理事 井上 龍子、吉田 茂人は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事です。
(注2) 監事 東 能利生、原田 美紀は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事です。

組織図



※第75回通常総代会（令和8年6月26日）終了後の役員及び組織図を掲載しております。

浅生支店 新装オープン

令和8年3月9日（月）浅生支店が新装オープンしました。

浅生支店は戸畑エリアを拠点に、戸畑市信用金庫本店として昭和33年に開設しました。

新装オープンを機に、これまで以上に地域に密着した金融サービスを提供し、お取引先の皆様に喜んでいただける店舗づくりを目指し、多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。皆様のご来店を心よりお待ちしております。



福岡ひびき信用金庫のDX戦略について

DX戦略の制定

福岡ひびき信用金庫では、これからも「地域に暮らす人々との心と生活（くらし）を豊かにする」ため、「地域社会・お客様・ひびしん・職員の持続可能な未来の確立」を目指すべく、DX戦略を制定しました。我々の取り巻く環境は、人口減少や産業構造の変化というかつてない大きな転換期を迎えています。この変革期を迎えた時代において、柔軟な経営スタイルを模索し続けることは、お客様の期待に応え、地域社会の未来を支えていく為に必要不可欠なことです。ひびしんのMissionである“Face to Faceを超えた、その先へ～ Face to Face to Face～”を体現し、次の100年に向けてひびしんが進化するためにも、デジタル技術の活用が求められているのです。DX戦略は、デジタルを通じて「人と人との繋がり」をより深く、より広くするための挑戦です。今後、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を通して質の高い金融サービス提供と人材育成に努めてまいります。そして、これからの地域社会に明るい未来が照らせるよう役職員一丸となって取り組んで参ります。

SNSを活用したお客様支援

2024年6月に当金庫の公式Instagramを開設しました。地域経済の活性化及び取引先企業との関係強化を目的として、地元で活躍する企業や店舗の魅力を発信しています。

事業内容や商品・サービス、経営者の方の思いなどをご紹介することで、地域の皆さまとの新たな接点を生み出すことに加え、地域外への認知拡大と販路拡大に繋がることを目指して、日々情報発信を行っています。

2026年6月1日現在でフォロワー数は3,630人となっております。今後も地域に根ざした広報活動を継続してまいりますので、ぜひ当金庫の公式Instagramをフォローいただき、地域の魅力に触れていただければ幸いです。



持続可能な地域社会に向けたひびしんの取組み

ひびしんは、地域とともに歩む信用金庫として、持続可能な社会に向けた取り組みを進めています。

I. 地域とともに進めるESGの取組み

■ しんきんESG広域連携協定

令和7年7月16日、神戸大学「出光佐三記念六甲台講堂」にて開催された「神戸大学・尼崎信用金庫共同研究成果発表シンポジウム」にて、当金庫と尼崎信用金庫、川崎信用金庫、浜松いわた信用金庫の4金庫による「しんきんESG広域連携協定」が締結されました。

本協定はESG地域金融を積極的に推進している信用金庫が集結し、各信金のESGに関する取組事例や課題等を発表、議論する場を設け、地域を越えた環境・社会に対するインパクトの創出や地域の持続可能性の向上を目指しています。また、しんきんESG広域連携の取組みに賛同する信金の輪を広げ、ESGを起点とした信金ネットワークを構築することを目的としています。

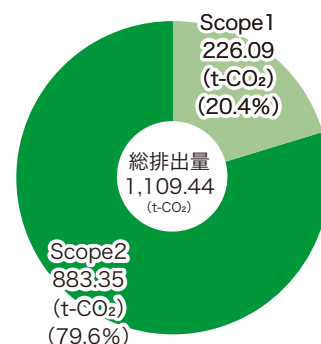


【連携協定締結式、シンポジウムの様子】

■ 事業活動における環境負荷の低減

当金庫は2050年のカーボンニュートラル達成を目指し、事業活動における環境負荷の低減に取り組んでおります。具体的には、本部・営業店における電力使用量の削減、照明のLED化、太陽光発電設備の導入、営業車の環境配慮型車両への切替等を推進しています。2025年度の当金庫のCO₂排出量は1,109.44t-CO₂となり、基準年である2022年度比で▲9.4%の削減を達成しました。削減の主な要因は、電力使用量の削減（Scope2）およびガソリン使用量の抑制（Scope1）によるものです。なお、当金庫のCO₂排出量の大部分は電力使用に伴うScope2が占めており、今後の削減においても電力使用量の削減および再生可能エネルギーの活用が重要な課題となっています。また、当金庫は2030年度までに2022年度比▲46%削減を目標としており、2030年度削減目標（▲46%）に対して、現時点では約2割程度の進捗となっています。今回の削減は当該目標達成に向けた初期段階の進捗と認識しています。今後も削減ペースの加速を図りつつ、お客様の脱炭素支援と併せ、地域全体のCO₂排出量削減に貢献してまいります。

CO₂排出量構成比
(2025年度)



CO₂排出量推移 (Scope1・2)

(t-CO₂)

	Scope1 (注1)	Scope2 (注2)	合 計	目 標
2022年度(基準年)	251.19	973.09	1,224.28	2030年度までに2022年度比▲46%を達成、 2050年度までに実質GHG排出量0（カーボン ニュートラル）を達成
2025年度	226.09	883.35	1,109.44	
削減率	▲10.0%	▲9.2%	▲9.4%	

(注1) Scope1：当金庫のエネルギー利用によって直接排出したCO₂(ガス・ガソリン)。

(注2) Scope2：他社から供給された電気の使用に伴い間接的に排出したCO₂。

中小企業の経営支援に関する取組み

① 中小企業の経営支援に関する取組み方針

当金庫では地域に密着した金融機関としての強みを生かし、中小企業の実態を把握、企業の経営課題解決に対する主体的な取組みに対し積極的に支援を行います。また、平成28年9月に金融庁が公表した「金融仲介機能のベンチマーク」をこれらの取組みを客観的に評価する重要な指標と位置付け、その数値を開示し、地域のお客様にご理解いただけるように努めてまいります。支援に当たっては、必要に応じて外部専門家・外部支援機関等と連携し企業の実態に合った支援を適切に行うように取り組んでいます。

② 中小企業の経営支援に関する態勢整備・取組みの状況

全取引先数と地域の取引先数の推移、及び、地域企業数との比較(先数単体ベース)

(単位:件)

	令和7年3月期				令和8年3月期			
	地元(福岡県)		地元外(福岡県外)		地元(福岡県)		地元外(福岡県外)	
	北九州市	北九州市以外	大分県・山口県	その他	北九州市	北九州市以外	大分県・山口県	その他
全取引先数	10,031				10,335			
地域別の取引先数の推移	9,928		103		10,216		119	
	6,621	3,307	47	56	6,808	3,408	56	63

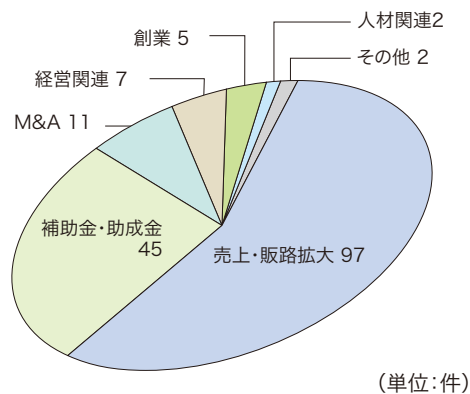
令和7年度 支援課題別集計

お客様からの経営相談は営業店と本部が一体となって、ご支援いたします。また、高度専門的な課題の場合は、福岡県よろず支援拠点・北九州市中小企業支援センター等の外部支援機関と連携し、お客様の課題解決に向けた最適なサポートの実現を目指して取り組んでいます。

令和7年度 支援課題別集計

支援課題	先数	
	件数	構成比
売上・販路拡大	97	57.4%
補助金・助成金	45	26.6%
M & A	11	6.5%
経営関連	7	4.1%
創業	5	3.0%
人材関連	2	1.2%
その他	2	1.2%
合計	169	100.0%

令和7年度経営相談 支援課題別 先数



● 創業・新規事業開拓の支援

当金庫が関与した創業件数

	令和7年3月期	令和8年3月期
創業関与件数	124先	90先

創業支援先数

	令和7年3月期	令和8年3月期
①創業計画の策定支援	15先	5先
②創業期の取引先への融資(保証協会)	109先	85先

■ ひびしん創業塾

当金庫では、創業・起業を目指すやる気のある方々を応援するため、「ひびしん創業塾」を継続して開催しています。

本創業塾の特徴は、単なる学びの場で終わらないように、受講後のフォローにも注力しているところです。受講生の方と一緒に、創業に向けてビジネスプランを考え、事業に必要な資金のお手伝いをするなど金融機関だからこそできる創業支援に取り組み、受講生の想いを創業という形に変えられるように努めています。第17回目となる「ひびしん創業塾」（令和7年10月から11月の4日間コース）では、15名の方に受講いただき、全17回の累計受講者は451名、創業者97名となっています。

3年以内に起業を考えているアナタへ

夢だけで終わらせない！
創業への最短ルートはここに。

16年間で436名が受講し、87名の創業を実現

2025 ひびしん創業塾
あなたの創業への想いに追い風を！
ビジネスプランの立案から創業資金調達まで一貫指導

ひびしん創業塾とは？
ひびしんとは？
先達のサポート

全17回コース 全17回授業料
10,250円・11,800円・11,220円・11,290円
（税込）
※11月22日（日）は11月22日（日）に繰り上げ開催となります。

受講料20,000円
※11月22日（日）は11月22日（日）に繰り上げ開催となります。

テキスト代5,000円（税込）

093-665-2414 093-674-2717 <https://forms.office.com/r/3rVe9Yn35>
福岡ひびき信用金庫 営業総務部（担当：安永・大池・山口）
福岡市北九州市（〒815-0855）福岡市東区中洲4-1-1 福岡市東区中洲4-1-1 福岡市東区中洲4-1-1

4日間で学ぶ、ビジネスの始め方
あなたの未来を拓く4日間

ひびしん創業塾
あなたの未来を拓く4日間

【11月17日（土）11月18日（日）11月19日（月）11月20日（火）】

【講師】ビジネスプラン作成（たきま）のこを22日の間に提出
【講師】ビジネスプラン作成（たきま）のこを22日の間に提出

【講師】ビジネスプラン作成（たきま）のこを22日の間に提出
【講師】ビジネスプラン作成（たきま）のこを22日の間に提出

講師紹介
各分野のプロフェッショナルがあなたの夢をサポート

代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役 代表取締役

● 創業塾受講生の創業状況（令和8年3月31日現在）

（単位：名）

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期
受講者(a)	42	35	39	28	30	36	32	25	30
受講時点で既に創業済み(b)	6	2	6	2	3	7	5	4	6
受講後創業(c)	10	8	9	6	6	7	6	3	9
創業率(c/(a-b)×100)	27.8%	24.2%	27.3%	23.1%	22.2%	24.1%	22.2%	14.3%	37.5%

	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	1~17期計
受講者(a)	28	21	18	18	11	19	24	15	451
受講時点で既に創業済み(b)	4	2	6	5	2	1	10	4	75
受講後創業(c)	2	10	4	1	6	7	3	0	97
創業率(c/(a-b)×100)	8.3%	52.6%	33.3%	7.7%	66.7%	38.9%	21.4%	0.0%	25.8%

● 成長・成熟段階における支援

● 販路開拓支援を行った先数

		令和7年3月期	令和8年3月期
販路開拓支援を行った件数	地元	11件	8件
	地元外	57件	18件
	海外	0件	0件

● 「しんきんコネクト」活用による販路拡大支援

信金中央金庫によるビジネスマッチングサイト「しんきんコネクト」を活用した販路拡大支援を行っています。全国の信用金庫取引先や大手バイヤーとの年間マッチングを行うことができるほか、スポット企画での商談会も本サイトの仕組みを使用し行われています。

		令和7年3月期	令和8年3月期
しんきんコネクト 累計登録数	サプライヤー	177先	191先
	バイヤー	49先	53先
	合計	226先	244先

信用金庫業界のネットワークを活用したビジネスマッチングサイト

しんきんコネクト

全国各地の
中小企業・大手企業
約15,000社が登録

会員登録から
商談申込みまで
ワンストップで完結

実績豊富な
商談企画
を多数ご案内

登録料・利用料
マッチング手数料
全額無料

こんなご要望ありませんか？

自社商品の魅力を
全国に発信したい

取引先の拡大により
リスク分散を図りたい

効率的な方法で
協力会社を開拓したい

他社と業務提携し
事業効率化を図りたい

しんきんコネクトで解決できます！

ご利用方法
アクセス
STEP 1 会員登録
STEP 2 マッチング
STEP 3 商談申込み

ご登録の届、紹介金庫には、お取引のある信用金庫までご紹介いたします。

連絡先 福岡ひびき信用金庫

● 第8回しんきん合同商談会

令和7年11月12日（水）マリンメッセ福岡において、九州北部3県（福岡県、佐賀県、長崎県）の13信用金庫の力を結集した「第8回しんきん合同商談会～中小企業による商売繁盛の祭典～」を開催いたしました。

出展企業・団体347社・団体、バイヤー企業20社の合計367社・団体が出展、当日は5,246名にご来場頂きました。商談総件数は2,365件（うち成約件数557件）となりました。



第8回しんきん合同商談会結果（令和7年11月18日現在）

	商談件数	商談成約件数・成約率・継続件数			
			成約件数(見込含)	成約率(%)	継続件数
個別商談	2,189件	1,307件	520件	23.8%	787件
バイヤー商談	176件	138件	37件	21.0%	101件
合計	2,365件	1,445件	557件	23.6%	888件

● 経営改善・事業再生・業種転換等の支援

経営改善・事業再生・業種転換等の支援業務は、福岡県信用保証協会、福岡県中小企業活性化協議会等の外部支援機関との連携強化に努め、実効性の高い支援の実現を目指して取り組んでいます。

● 金融機関が貸付条件の変更を行っている中小企業の経営改善計画の進捗状況

中小企業の条件変更先に係る 経営改善計画の進捗状況	条件変更 総数	好調先 順調先 不調先	令和7年3月期		令和8年3月期	
			541先	18先	607先	28先
				50先		77先
				473先		502先

● 「経営者保証に関するガイドライン」への取組み

当金庫では、「経営者保証に関するガイドライン」及び「事業承継時に焦点を当てた『経営者保証に関するガイドライン』の特則」の趣旨や内容を十分に踏まえ、お客様からお借入れや保証債務整理の相談を受けた際に真摯に対応するため、『「経営者保証に関するガイドライン」への当金庫の取組み方針』を策定しています。同取組方針に基づき、経営者保証の必要性については、お客様との丁寧な対話により、法人と経営者の関係性や財務状況等の状況を把握し、同ガイドライン等の記載内容を踏まえて十分に検討するなど、適切な対応に努めています。

	令和6年3月期	令和7年3月期	令和8年3月期
新規に無保証で融資した件数	1,573件	1,795件	1,901件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	19.86%	22.99%	25.74%
保証契約を解除した件数	77件	47件	88件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数 (当金庫をメイン金融機関として実施したものに限る)	4件	1件	2件

③多様な顧客ニーズに応えるための取組み

当金庫では中期経営計画に掲げた人的資本経営の充実のため職員向けに様々な研修を実施しています。地域社会に愛され、地域に貢献出来る人材となるべく、日々研鑽に励んでいます。新入職員については配属前に、2カ月間の徹底した研修を受講します。またサステナビリティ推進の観点から、脱炭素支援に関わる人材育成の強化を目的として、毎月支店長・渉外担当者を対象とした脱炭素関連の研修を実施し、環境経営やGX支援に関する実践的知識の習得を図っています。

● 取引先の本業支援に関連する研修等の実施数、研修等への参加者数、資格取得者数

		令和7年3月期	令和8年3月期
取引先の本業支援に関連する研修等の実施数、研修等への参加者数、資格取得者数	研修実施回数	13回	16回
	参加者数	407名	543名
	資格取得者数	10名	60名

● 新入職員配属前研修



● 職員のソリューション営業能力強化

当金庫では、職員一人ひとりが地域の多様な課題に対応できるよう、分野横断的な研修を通じてスキル向上を図っており、専門性と実行力を備えた人材の育成を目指しています。

